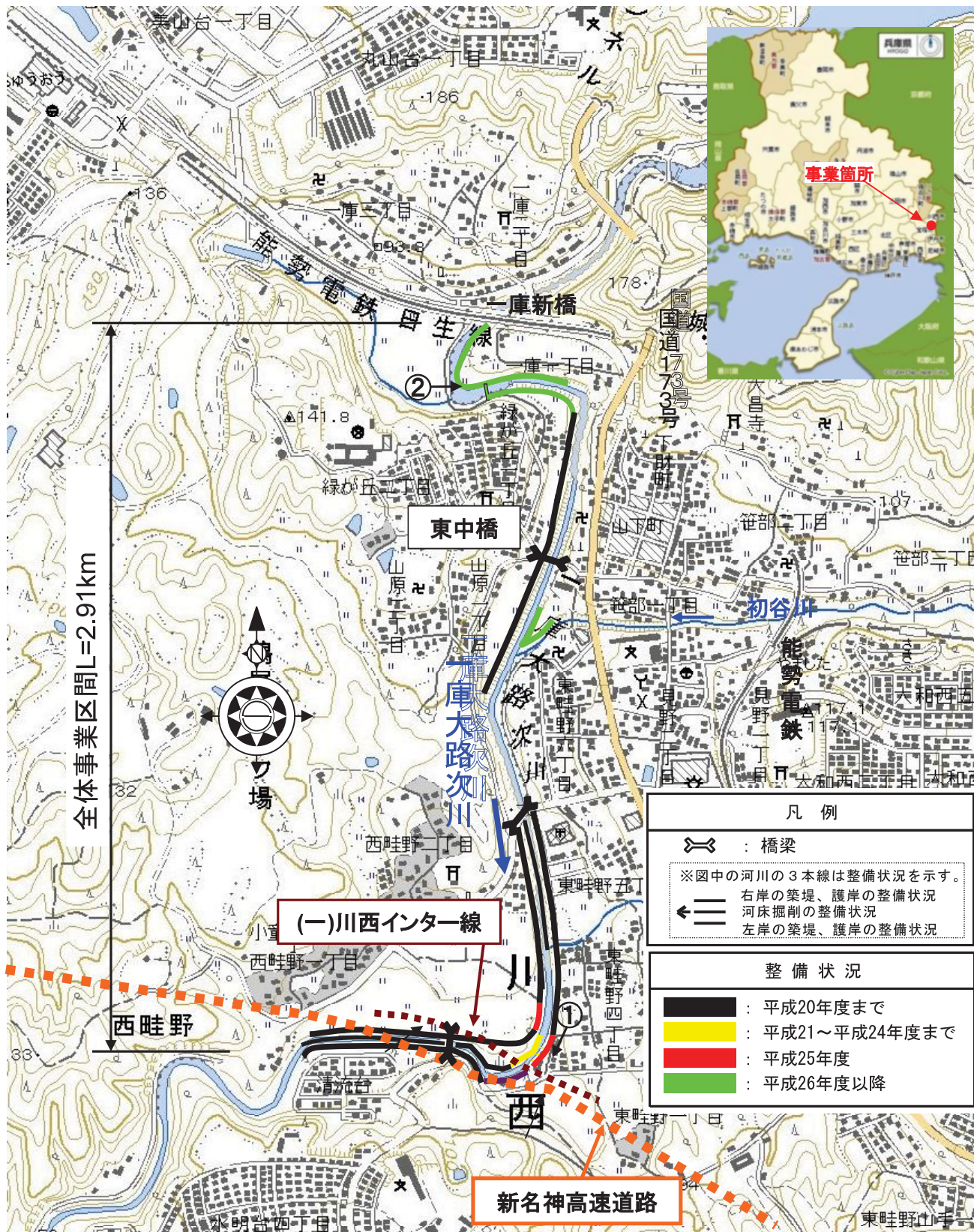


河川整備計画策定報告（中間）

部課室名	県土整備部土木局 河川整備課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	河川整備課 松本正利 (都市河川係長 山本良太郎)	内線	4408 (4417)
事業種目	河川事業	新規評価年度	—	現計画	前回評価時点
事業名	一級河川淀川水系 一庫大路次川 総合治水対策 特定河川事業	事業採択年度	S54	総事業費	45億円
		着工年度	S54	内用地補償費	28億円
		再評価年度	H10 H15 H20	完成予定年度	H30
事業区間	川西市西畦野～一庫		進捗率 (内用補進捗率)	77% (69%)	72% (68%)
所在地	川西市		残事業費	10.4億円	12.6億円
事業の目的			事業内容		
当該地域の浸水被害を防止するため、昭和28年9月台風13号の洪水に対応した治水安全度1/10を目標に改修を行い、地域住民の安全・安心な生活環境を確保する。			計画流量	現計画	前回(H20)
			整備延長 主要工種	前回から 変更無し	780m ³ /s (1/10) (初谷川合流点) 2,910m 築堤、掘削、護岸、 橋梁3橋
			〔負担割合：国1/2、県1/2〕		
事業を取り巻く 社会経済情勢等 の変化	①国において、平成19年8月に淀川水系河川整備基本方針、平成21年3月に国管理区間の淀川水系河川整備計画が策定された。 ②県管理区間については、国の計画と整合する淀川水系猪名川圏域河川整備計画を策定する。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 変更なし				
進捗状況	①これまでに、築堤、護岸、掘削、横断構造物の改築等を行い、下流から初谷川合流点までの区間(1.75km)及び上流の東中橋付近は概成。 ②中でも、文殊橋付近については、新名神高速道路及びインター線の橋梁等の施工に合わせて工事を実施し、平成25年度に初谷川合流点下流までは完成予定。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び 対応方針 (前回 再評価)	【審査会意見】 継続妥当		【対応方針】		
(1) 必要性	①一庫大路次川は河積が狭小で一部には無堤区間を有し、河川断面を阻害する横断構造物が存在する。昭和42年7月台風と梅雨前線による豪雨等により過去から被害を受けている。 ②川西市北部の市街地を浸水被害から守るため、河川改修工事を実施しており、残区間の治水安全度を早期に向上させるため、継続的な整備を実施する必要がある。				
(2) 有効性 ・ 効率性 (執行環境状況)	①B/C=1.1 ②地権者の協力により、計画区間の用地測量は順調に進んでおり、事業執行環境は整っている。				
(3) 環境 適合性	①住民との話し合いにより、河畔林の竹林伐採を最小限にし、ケヤキの高木を残すなど計画を見直し、周辺の自然環境に配慮した河川改修を進めている。				
(4) 優先性	①流下能力の低い区間が残っており、沿川は人家が密集しているため、事業の優先性は高い。				
河川整備 計画の策定状 況	【流域懇談会等の開催状況】 ①平成23年3月に淀川水系猪名川圏域河川整備計画懇談会を設置し、現在も継続中。 ②これまでに4回の懇談会を開催し、流域概要、利水、環境に関して検討を進めている。 【流域懇談会等の主な意見】 ①ホタルは猪名川の中・上流域や支川にも多く生息しており、これを地域資源として住民が認識できるよう、整備計画に反映すべき。				
対応方針	早期に河川整備計画を策定することとし、策定までの間は現計画に基づき事業を継続実施する。				

総合治水対策特定河川事業（一）淀川水系 一庫大路次川



総合治水対策特定河川事業（一）淀川水系 一庫大路次川

整備済区間(下流:文殊橋上流付近)



未整備区間(上流:一庫新橋下流付近)



未整備区間断面図

